

1 分科会 魚粉班の報告

項目	報告内容
生徒からの報告内容	<p>「外来魚大進化計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に外来魚の駆除が行われており、外来魚の駆除が目的ではなく共存の在り方、有効活用を図りたい。 ・外来魚を魚粉に加工し、肥料として化学肥料との比較栽培を小松菜で実験を行ってきた。(メーカーや水産試験場の協力を頂く) ・葉物と果菜の生育に期待できる。 ・外来魚を魚粉に加工し肥料としての有効活用を地域に広めたい。
意見交換の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・このテーマの選択理由は、について 栃木県内でも外来種コクチバス、オオクチバス、ブルーギルなどが多く生息しているが、殆んどか廃棄されている。有効活用を考えた。 ・廃棄魚類は琵琶湖に外来魚回収ボックスが設置されており、十数トン(年)回収される。処分費約 1200 万円、処分は守山漁協で行っている。 ・佐野高校では活動に栃木県水産試験場、三幾飼料工業の協力仰ぎ魚粉に自分たちで加工。葉物野菜等の生育に期待ができるため、土との魚粉・化学肥料との配合の研究を重ね、小松菜の成長を図る実験を行った。(魚粉は窒素 10~10.5%、リン酸 4~5%を含む) 今後、商品化には成分の分析等により葉物肥料としての用途が拡大するのではないか。 ・魚を乾燥・粉末化には臭いや取扱い保管などに苦労があった。生ごみ処理機なども使用が可能である。
感想、所見、課題等	<p>改めて外来魚の廃棄・有効活用について考えさせられました。在来魚の生態系の保護の観点から外来魚は全て廃棄処分されており、全国では大量にある事を知りました。新たな発想で魚粉に加工し、家庭菜園やJAなどを通しての6次産業化も夢ではありません。</p> <p>地域・企業・漁協等の関連団体との連携を図る事により、新たな事業化も図れると共に佐野高校生に今後の更なる研究を期待致しております。</p>

2 参加議員 亀山春夫、篠原一世、鶴見義明